技術・家庭科　学習指導案

日　時　　平成２０年１１月１０日（月）５校時
学　級　　２年２組（男子２０名　女子１８名　計３８名）
場　所　　被服室
授業者　　熊谷　信子

１　題材名　　Ａ　生活の自立と衣食住　　５　快適に住まう　　「住まいの働き」

２　題材について

(1) 教材観

この題材は、学習指導要領の内容のＡ(4)「室内環境の整備と住まい方」における(ｱ)「家族が住まう空間としての住居の機能を知ること」をねらいとしている。

人間にとって、住まいは生活の基盤である。しかし、現在の家庭の状況を見ると、核家族化、単身赴任、女性の社会進出などにより生活形態が様々に変化している。そのために、家族の絆を見失いがちになり、家庭の問題が社会の共通の課題となっている。このような現状から、『住まい』を単なる住む器ととらえるのではなく、『家族がかかわりながら住まう場』ととらえて、その在り方を追求することが大切であると考える。

中学生の頃は、親に依存してきた生活から、親から独立を願い、親と向き合おうとする成長の過渡期にある。この時期に、家族の立場を思いやりながら、その一員として自分がどうかかわり、家庭の中でどう生活していったらよいかを考えさせるのは意義のあることだと思われる。

住まいは心身の健康と安らぎを得、明日への活力を養う場、次世代を育てる場であり、家族とともに住むという視点から、住まいのはたらきを知らせ、家族関係をより深く考える学習に適していると考え、設定した。

(2) 生徒観

生徒は『住まい』があるのが当たり前と考え、住まいの必要性や機能について関心が低い。生徒の 83 %は自分専用の部屋があるが、そのうち 40 %が自分の部屋に満足していない。意外に兄弟姉妹と部屋を共有している生徒は自分の部屋に満足しているというアンケート結果が出ている。

自分の住まいに対して、『安心してくつろげる場所』と考える生徒がほとんどである。また、住まいの仕事については、自分部屋・風呂・玄関掃除などおおかたの生徒が行っており、家族の一員として毎日行っている生徒も少なくない。住まいの欧風化が進んでいるせいか、襖や障子貼り、畳干しなどを経験している生徒はごくわずかである。

前向きに学習に取り組もうとする生徒が多く、自分の考えをまとめたり、作業に熱中することができるが、発表場面になると消極的になる生徒が見られる。

(3) 指導観

本題材では、住まいについて、その働きを生徒の毎日の生活を振り返りながら、精神面と機能面から理解させることを目標として行う。

「もし、突然ホームレスになったら・・・」どんなことで困るのかを考えさせ、住まいの働きについて理解させたい。また、自然条件や地域社会に対応した住まいを紹介しながら、先人の知恵が現代にも生きていることに気づかせ、住まいへの興味・関心を高めさせたい。

3　題材の目標

(1) 自分の生活を振り返り、住まいの働きや家族の住まう空間としての住居の機能を考える（関心）
(2) 生活経験を生かして安全な住まい方や快適な室内空間の整え方を自分なりに工夫する　（工夫）
(3) 環境に配慮し自然や自然エネルギーを生かした施設・設備を取り入れた室内環境作りを整える（技能）
(4) 安全で快適な室内環境の整え方を理解する。（知識）

4　単元の指導計画と評価規準

時	指導目標	評　価　規　準			
		関心・意欲・態度	工夫・創造	生活の技能	知識・理解
1 本時	・自分の生活を振り返り住まいの働きを考える。 ・地域の自然条件による住まい方の工夫があることを理解する。	・自分の生活を振り返り、住まいの働きについて考えようとしている。			・地域により、安全を守る工夫がそれぞれあることを理解する
2	・家族のﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞを考えた住まい方を工夫する。 ・自分や家族が気持ちよく住める住まいの条件を考える。	・自分や家族が気持ちよく住める住まいについて具体的な条件を挙げる。	・家族との関わりや高齢者の介護等、ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞを視野に入れた住まい方を考える。		
3 ・ 4 ・ 5	・環境に配慮し、住居用洗剤や用具を用いて室内を快適に整えることができる。 ・住まいの事故防止と安全管理の仕方を考える。 ・環境に配慮したこれからの自分の家の工夫について考える。		・地球温暖化やｴﾈﾙｷﾞｰ問題を視野に入れながらこれからの住居の工夫をしようとしている。	・安全な洗剤や便利な用具を用いて室内をきれいに整えることができる。	・家庭内の危険箇所に気づき、事故防止の方法を理解している
6	・環境に配慮した住まい方について工夫する。	・化石燃料の節約や安全な自然ｴﾈﾙｷﾞｰの活用に関心を持ち、自分の生活に取り入れようとしている。	・自然ｴﾈﾙｷﾞｰを利用した住まい方について工夫しようとしている。		

5　本時の計画

(1) 指導目標

ア　自分の家庭生活を見つめ、住まいの働きを考えることができる。
イ　地域の自然条件によって住まいの工夫があることを理解することができる。

(2) 指導の構想

ア　事前アンケートで生徒の実態を把握し、学習内容に配慮する。
イ　課題把握の場面で、「もし、突然ホームレスになったら・・・」の問いかけに、自分の考えを発表させることにより、本時学習内容への問題意識と課題解決の意欲を高めさせる。
ウ　班での意見発表を通し、自分の生活を振り返りながら、住まいの働きについて精神面と機能面からより深く考えさせる。
エ　「カヤネズミの巣」「五箇山の合掌造り」「屋敷林」の映像資料を用い、気候風土と住まいの工夫や先人の知恵を通して、住居の機能についての理解を深める。

(3) 具体の評価規準

	具体の評価規準		C（努力を要する生徒への手立て）
	A（十分満足できる）	B（概ね満足できる）	
関心・意欲・態度	・自分の生活を振り返り、住居の機能について具体的に考えようとする。 ・自分の考えを学習シートにまとめたり発表したりする。	・住居の機能について考え、学習シートにまとめようとする。	・ホームレスの人々の生活の記事を読ませ、住居の果たす役割を考えさせる。
知識・理解	・住まいの働きや地域の自然条件に応じた住まいの工夫や先人の知恵がわかる。	・住まいの働きがわかる。 ・矢巾町で古くから屋敷林に囲まれた住居のあることがわかる。	・映像資料のポイントを説明し、住まいの働きに気づかせる。

(4) 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点（方法）
導入 10分	○　前時の想起	・前時の学習内容を確認する。		
	1　学習課題の把握	・突然、住まいをなくしたらどんなことが困るか考える。	・『ホームレスが失ったもの』を参考に、具体的に考えさせる。	【関心・意欲・態度】 ・快適な生活ができなくなることを指摘できる（指名発言）
	学習課題：住まいのはたらきについて考えよう。			
展開 33分	2　学習課題の追究	・生活に必要な住まいの条件を考える。	・住まいは生活の基盤であること、厳しい自然条件から守ってくれることに気づかせる。	【関心・意欲・態度】 ・生活に必要な住まいの条件を指摘できる（学習シート）
		・班で意見発表をする	・班で話し合わせて意見をカードに記入させ、発表させる。	【関心・意欲・態度】 ・項目ごとにカードを整理できたか。
		・資料映像を見て、地域や自然条件に応じた安全を守る住まいの工夫や知恵を考える（カヤネズミの巣・五箇山の合掌造り・矢巾町の屋敷林）	・三つの資料映像から住まいの工夫や知恵に気づかせ、住居の機能について理解させる。	
	3　学習課題の解決	・住まいのはたらきについて考える。	・住まいに求められる働きを精神面と機能面から考えさせる。	
終結 7分	4　まとめ	・本時のまとめをし、理解度を自己評価する	・まとめの問題に取り組ませ、理解度を自己評価させる。	【知識・理解】 ・住まいのはたらきを理解している。
	○　次時の予告	・家族構成と住居の役割	・次時の確認	